

素晴らしい指導者との出会いと研究

藤池 安代

これまでの私の教員生活を振り返ってみると、大きな5つの段階を経た出会いと学びがあったように思う。第1は教育実習で、第2は初任校で、第3は神戸大学への内地留学で、第4は研究員としての地域素材の研究で、第5は授業分析の学びでというように、転機になる時には良き指導者と出会い、良きアドバイスをいただいた。

学校教育に関わった第一歩は、京都市内公立小学校の教育実習で第1学年担任真鍋孝子先生との出会い。真鍋先生は病弱だったがそれを口実にして生半可な教育をするのではなく、精一杯子どもたちと向き合い考え抜かれた授業を常に展開していた。学級経営、児童理解等、また、ご自身の姿や日々の実践から、教育者としての心構えについても指導を受けた。実習最後の日、「教師になって3年間は何が何だか分からない位に忙しいと思う。先輩や同僚の中には個々に秀でたものを持っている方が沢山いる。分からないこと、分かっているけど確かめてみたいことを積極的に自分から話しかけ、貪欲に吸収すること。一人の人に傾倒せず、一旦自分の引き出しに入れ、クラスの子どもに合うか、他にやり方はないか判断していくこと。初任からの3年間は大変だが、好きな人に会えたらその間に結婚すること。忙しいから結婚しないのではなく何にも分からないから、こんなものだと思ってしまう。私は、相手に悪いと思いき結婚していない。それは自分で選んだことだけど、貴女はそんなことのないように。初任の3年間に得意な教科を見つけて、勉強も少しずつやること。小学校だからといって全教科をオールマイティには出来ないから、1つを選んで実践していくと5年はあっという間に過ぎ、それを過ぎるとその教科についてもっと研究したくなり、更に追究していくと10年は瞬く間に過ぎる。それが過ぎると本格的に研究テーマが定まりさらに深く探究し、それらは、貴女の揺るぎない自信となるはず。子育てをし、学校の子どもとも真剣に向き合い努力する教師になって。」と話された。その時理解は出来なかったが、ご自分の経験からの全ての思いに感激し、教師への決意を新たにされた。

教師になって、多くの同僚先輩とコミュニケーションを重ね、あそこの先生は授業が素晴らしい、あの学校はこんな研究をしていると聞けば積極的に出かけた。当時、学年主任の山崎豊子先生が、「私たちが貴女に教えることには限界がある。貴女がいない間のクラスの子どもたちを見守り指導するのは任せること。今は、私の方が貴女よりはできる。貴女は外で学んできたことを私たちに報告し、良いことはクラスの子どもたちに授業で返していくように。」と言

われ外部の実践者から多くのことを学んだ。

新卒から4年目、結婚して3年目に入った時、学びを深めたくなり、神戸大学教育学部に内地留学（教育委員会制度、授業を終えた後、大学で指導を受け研究テーマに沿って研究する）をした。そこで指導を受けたのが中西哲教授で、地衣類の研究が専門で南極隊に学者として参加された方だ。大学では理科教育について学び、研究テーマを「生物教材の教育課題とその活用法」とし研究を行った。中西教授は自分の研究生である私を同じ教育者として扱い、未熟な私の実践者としての言動でも尊重し、理論と実践の相違点に対する私の拙い意見に耳を傾けて、温かく助言して下さった。内地留学修了後も授業研究で思案にくれると中西教授の門を叩き指導を受けるなど、交流はご病気で亡くなられるまで20年余続いた。病床で、「もう一度、一緒に研究をしたいね。」が最後にかけていただいた言葉だ。

上の子（娘二人）の小学校入学にあたり、私も学びを深めたいと思い、教育委員会の研究員にチャレンジした。放課後を活用した研究活動だったが、内地留学での経験を更に深めたいと考え、前田保夫指導主事が担当する理科教育の研究チームに入った。特に「地域素材の教材化」を研究の中心テーマに据え、神戸市内の自然環境を対象に研究をするこのグループには、小・中学校教師15名程度が在籍し、前田先生の指導を仰ぎ個々の研究テーマに沿って研究を深めていた。私は中西教授の下での学びを生かし、神戸の野草を調査研究することになり、放課後や休日は調査に明け暮れた。植物を採集→標本づくり→名前の同定→その植物の特徴をまとめていった。このグループでは自分の研究と共に全員での調査もあり、多くの月日を費やし六甲山をくまなく生態調査をしていく中で、時には大きな発見もあった。六甲山にはないと言われていたイヌブナの原生林を見つけたことや神戸市内の地質調査を進めていたグループのメンバーがゾウの化石を発見し、全員で発掘調査を行ったこと等が印象深い。前田先生は、常に「調査研究には、それを証明するものがなければならない。事実裏打ちされてこそ本物とされ、横槍が入っても確固たる存在として認められる。」と話され、野草、化石、昆虫、プランクトン、地質等、個々のテーマは様々だが、その教えは皆守っていたし、共同の調査をすることで、自分自身の研究との繋がりにも気付くことが多くあった。3年間の調査研究の成果を広く現場の先生方のテキストとして活用されるように「神戸の野草」として教育委員会より出版した。花の色別、季節別、教材性、その植物にまつわるエピソードをまとめたA5版の持ち運びしやすい、見やすい、探しやすい本にした。その本を片手に多くの先生方に野外での植物観察を指導した。一方、本が完成する頃になると前田先生は、「次に続く研究テーマを見つけるように」と言われた。適当なテーマを考えても浮かんでこなかったが、「『地域素材の教材化』というのは、本ができて完結したのではない。いかに授業に組み込んでいくかが次の課題だと思う。」との助言で、調査してきた野草が授業の中でどのように活用できるかを研究テーマに子どもたちが興味をもちどの地域でも手軽に手に入り、その植物事体に多くの教材性をもつものを授業に取り入れ、授業構築、児童の変容、指導要領との関連等を実践しながら追究していった。そ

ここで、課題になったのが「授業設計と児童の変容・教師の変容とその評価」についてだった。前田先生は、「研究をするには自分が研究しようとする目的を立てること、どんな手順でデータを集め、また、実証するかを常に意識することが大切だ。」と言っておられた。ご自分の得意分野については情熱をもって後進の指導をされていたが、専門外については、その当時最先端をいく研究者と面識がなくとも私たちの指導を依頼して下さった。特に教育研究は、5年先、10年先の社会を見据えた研究をしていくことが必要だと話され実際にそのような行動もとられていた。

新たに大阪大学の水越敏行教授に師事し、その研究者チームで研究を深めていった。一般的な授業研究ではなく、論理的にしっかり行うもので、私が授業を構築し、実践する様子を水越教授や若き研究者達がビデオに撮り分析し、その結果を基に更に改善して実践を重ねていくものだった。その当時よりPDCAサイクルを実践していたと言える。新たな授業ができると水越教授に授業を見ていただき指導を受けた。生活科が誕生する以前から文部省中教審の委員をされていた水越教授の指示のもと合科的指導や新設される生活科の内容項目を生かした授業展開をして実証していった。これらの実践・研究を文部省科学研究費（奨励研究B）による個人研究に応募（S56～H元）し、（1）小学校低学年の児童における野草の教材化の研究、（2）小学校低学年における地域教材を中心とした合科的指導法の研究、（3）小学校中学年の合科的指導法と教材開発の研究～低学年からの連続性をねらって～、（4）小学校低学年の生活科を受けた第3学年からの総合学習の試行的研究、（5）神戸の地域性を生かし国際理解教育につながる生活科教材の開発 というように研究を重ね、財団法人上月スポーツ教育財団の上月情報教育研究助成による共同研究「生活科、総合学習で育む情報活用能力～地域教材の開発とその教育実践から～（H.8年度）」に繋げていった。

多くの素晴らしい人々・研究者との出会いがあり、多くの学びを得ることができた。30歳代から45歳代までは多くの授業に取り組みビデオに収めた数は200本程、私は指導技術を高めるためにそれを鏡的に活用し、子ども・教師・授業を分析し理論的に位置づけたのは、水越教授とその当時愛弟子であった多くの学者たちだ。教育実習で教えていただいた真鍋先生の話が奇しくもその通りになり、前田保夫先生には研究のノウハウは勿論のこと、学会等での発表についても基礎から指導いただいた。「授業場面における児童・教師の力量形成の在り方の研究」は、その後の私の研究テーマであり現在も続いている。

子どもが理解し楽しいと感じられる授業をしていくには、その背景に多くの学びと努力と良き指導者との出会いが必要だと思う。誰かが声をかけてくれるだろう、自分はここまでできるから大丈夫だろうという気持ちでは周りの様々な出来事や現象が目に入ってこない。私の教育者としての人生経験の一コマを紹介したが、本大学で学ぶ学生の皆さんには多くの出会いと学びがあるはずだ。自ら進んで自分なりの学びの追究をし、様々な情報が入っている多くの引き出しを創って行ってほしいと願っている。

(職 歴)

1969年 神戸市立東舞子小学校 教諭 勤務 以後4校で勤務
1972年 神戸大学教育学部 研究生 (内地留学)
1991年 神戸市教育委員会神戸市総合教育センター 研修専門員
1992年 大阪教育大学教育学部教員養成実地指導講師 (1994年まで)
1993年 神戸市教育委員会神戸市総合教育センター 研修課指導主事
1994年 大阪教育大学教育学部 非常勤講師
1996年 神戸市立神陵台小学校 教頭 以後3校で教頭
2005年 神戸市立多井畑小学校 校長
2009年 神戸市教育委員会生涯学習課 主任指導員
2012年 神戸親和女子大学 教授 (2030年3月まで)

(所属している学会)

兵庫県生物学会
日本教育工学会
日本生活科・総合的学習教育学会
ひょうご防災連携フォーラム

研究業績

(作成した教科書・教材)

- (1) 平成32年度版教師用指導書「わたしとせいかつ」上の執筆 (日本文教出版)
2018/10/01 2019/01/31
- (2) 平成32年度版文部科学省検定教科書生活科上・下編集・執筆 (日本文教出版)
2015/09/01 2019/03/31
- (3) 平成27年度版教師用指導書「わたしとせいかつ」下の執筆 2015/10/01 下記教科書の教師用指導書下の合科的・他教科との関連的な指導のあり方の分野 (日本文教出版)
- (4) 平成27年度版文部科学省検定教科書生活科上・下編集・執筆 (日本文教出版)
2013/04/01 2015/03/31
- (5) こうべっ子育て—もうすぐ1年生— (保護者用) 手引き書 (神戸市教育委員会)
2011/01/01
- (6) こうべっ子育て—もうすぐ1年生— (保護者用) 手引き書 (神戸市教育委員会)
2010/01/01
- (7) 生活科開発教材 指導資料「子どもの目、子どもの心」—生活科アイデア作品集— (神戸市総合教育センター) 1996/03/01

- (8) 副読本「しあわせはこぼう」と「しあわせはこぼう」指導の手引(神戸市教育委員会) 1995/11/01
- (9) 国際理解教育「異文化ふれあいチューター導入による学習活動の手引き」(神戸市総合教育センター) 1995/04/01
- (10) 授業と教材シリーズ生活科教材開発「たんぼぼとタンポポ」(神戸市総合教育センター) 指導資料とビデオ教材 1995/03/01 共著 藤池安代、是常哲生
- (11) 「きせつってなあと」(神戸市総合教育センター) 指導資料とビデオ教材 1994/03/01 単著
- (12) 指導資料生活科教材開発「おへそってなあと」(神戸市総合教育センター) 指導資料とビデオ教材 1992/03/01 単著
- (13) 授業と教材シリーズ11 生活科開発単元 小学校1年「ぼくらのタンポポ広場」「つばめさん、こんにちは」(神戸市立教育研究所) 指導資料 1989/03/01 共著 藤池安代・前田保夫・竹中幸子
- (14) 授業と教材シリーズ13 生活科開発単元 小学校2年「ツバメさんといっしょに」「ぼくらの町をアジサイでいっぱいにしよう」(神戸市立教育研究所) 指導資料とビデオ教材 1989/03/01
- (15) 授業と教材シリーズ2「タンポポとたんぼぼ」(神戸市立教育研究所) 1984/10/01 地域の野草を教材化し合科指導や総合学習の単位として開発した。共著 藤池安代・前田保夫

(著 書)

- (1) 生活&総合nave 単著 2018/02 日本文教出版 生活・総合への提言「深い学び」を構築するための授業設計とは
- (2) 小学校生活科教師用指導書下 単著 2015/10 日本文教出版 生活科の特徴である合科的指導他教科との関連的について教科書の位置づけと授業設計のあり方・指導のあり方について
- (3) 小学校生活科教科書上下 共著 2015/04 日本文教出版 編集・執筆した。
- (4) 生活科の学びと力量形成のあり方(大学編) 単著 2014/06 埼玉大学学会 日本生活科・総合的学習学会全国大会平成26年度埼玉大会自由研究で発表
- (5) 日本生活科・総合的学習教育学会第23回全国大会埼玉大会で研究発表レジメとして作成。
- (6) 大学から始まる生活科の学びと力量形成のあり方 単著 2013/09 日本文教出版 大学で生活科を学ぶ学生達に生活科の授業設計や授業の見方について講義の中で力量を付ける工夫等について考察した。

- (7) 初等教育資料10月号 単著 2008/09 文部科学省、東洋館出版社〈子どもが学ぶ、子どもに学ぶ〉—新たな出会いと学び—で紹介した。
- (8) 神戸のせいかつ18 共著 2008/03 神戸市小学校教育研究会生活部 神戸の生活科教育実践と展望についての研究のまとめ。
- (9) 「多井畑プラン」で育む心豊かな子どもの育成 単著 2007/03 神戸市小学校校長会編神戸市小学校校長会研究推進校報告
- (10) 「心豊かな子どもの育成と総合的な学習の研究」 単著 2006/03 神戸市小学校校長会編神戸市小学校校長会研究推進校報告
- (11) 生活科教育実践—生活科の本質とその具体化の手立て— 共著 1994/11 ナカニシヤ出版 鳴門教育大・村川雅弘教授と共同で編集・執筆。理論編・事例編・データベース編で構成。村川雅弘、藤池安代担当
- (12) 子どもの側に立った生活科実践事例「教材は子どものつぶやきの中から」 単著 1994/04 児童心理 金子書房
- (13) 図説小学校教育方法の改善 講座5「効果的な指導法と学習形態」 単著 1993/12 ぎょうせい
- (14) 新しい国際理解教育を創造する 単著 1993/09 ミネルヴァ書房
- (15) 新しい情報教育を創造する 単著 1993/07 ミネルヴァ書房 教師と子どもの対話を深める生活科の授業について考察。
- (16) 生活科「授業のコツのコツ」 単著 1993/06 児童心理金子書房 広がりと深まりのある実践活動例として、1年2年合同の「秋の収穫祭・やきいも大会」
- (17) 生活科授業研究 単著 1992/08 明治図書 生活科110番・困った時のお助けガイド「家庭の協力を得られない時」の工夫
- (18) 学校を楽しくするための提言 単著 1992/06 児童心理 金子書房 低学年の児童自らが興味や課題意識をもって取り組める生活科学習にするために、身近なタンポポ、ツバメ、アジサイを使った生活科の単元を紹介。
- (19) 小学校生活科の教材開発 単著 1992/01 東京書籍 「ぼくらの街をアジサイでいっぱいにしよう」の開発単元。
- (20) 生活実践力を育てる授業づくり 単著 1992/01 授業づくりアイデア全書・生活ぎょうせい 生活科でのサイクル学習の試み、身近にある生物（ツバメ、タンポポ、アジサイ）の教材化を通して「いのち」の音が聞こえる授業づくり。
- (21) 移行期の研修設計のポイント 単著 1990/08 学校運営研究8月 明治図書 移行期1年で浮上した実践課題について研修主任として研修設計のポイントを「本物の学力を身につける授業開発」に重点をおき提言。
- (22) 授業設計と展開の力量 共著 1990/04 ぎょうせい 授業場面での教師の経営行動に

ついて分析し、教師の力量形成に生かす。佐古秀一、浅田匡、藤池安代

- (23) 生活科の実践と評価—2年— 単著 1990/02 中教出版
- (24) 新しい低学年の教育課程と授業改善 単著 1989/10 明治図書 生活科の構想と展開・地域の自然を生かした生活科、ツバメ、タンポポの実践を紹介。
- (25) 植物の観察能力の育成と評価～2年ヒマワリの学習から～ 単著 1985/01 教育科学
理科教育明治図書
- (26) 新しい教材の開発と評価「地域教材（理科）の素材研究と授業研究の試み」 共著
1984/08 授業と評価ジャーナル5集 明治図書 前田保夫、藤池安代担当

（論 文）

- (1) 子どもの学びの支援のあり方と大学での学びのあり方の考察（2）～学力向上のための
手だて・小中の連携を探る～ 共著 2018/12 神戸親和女子大学児童教育学研究 第38号
- (2) 国語と生活科の関連を図る授業づくり—学びの深まりを求めて— 共著 2018/12 神
戸親和女子大学児童教育学研究 第38号
- (3) 生活科の指導力向上のための一考察～ラーニングマップを活用して～ 共著 2018/02
教職課程・実習支援センター研究年報 創刊号
- (4) 子どもの学びの支援のあり方と大学での学びのあり方の考察～学力向上のための手だて
～ 共著 2017/12 神戸親和女子大学児童教育学研究 第37号
- (5) 生活科における保幼小連携のあり方と教師の力量形成との関連性の考察～共に学び・共
に育つ子どもと教師～ 共著 2017/12 神戸親和女子大学児童教育学研究 第37号
- (6) 生活科の学びと力量形成のあり方～授業改善シートを活用して～ 単著 2017/03 神
戸親和女子大学児童教育学研究 第36号
- (7) 日本生活科・総合的学習教育学会平成28年度第25回全国大会宮城大会 発表 単著
2016/06 日本生活科・総合的学習教育学会宮城大会研究紀要 第25回
- (8) 日本生活科・総合的学習教育学会 その他（発表学会等） 2014/06 第23回全国大会
埼玉大会紀要
- (9) 子どもの学び・子どもの育ち 単著 2011/04 兵庫県子ども文化振興協会発行「みら
い」 担当 巻頭言
- (10) こうべっ子育て—もうすぐ1年生— 共著 2011/01 神戸市教育委員会 23年度版に
再編集。
- (11) 魅力ある学校づくり 単著 2010/03 ILEC言語教育文化研究所編学級経営方略 14号
- (12) こうべっ子育て—もうすぐ1年生— 共著 2010/01 神戸市教育委員会
- (13) 特色ある学校づくり 単著 2009/03 全国公立小・中学校女性校長会編女性校長会
会報 確かな学力（基礎学力・集団力）の定着をめざす学校経営、「知る楽しさ、学ぶ喜び、

共に生きる感動」が得られる授業の構築について

- (14) 平成20年度分かる授業推進拠点校実践発表学習指導案集 共著 2009/01 神戸市立多井畑小学校
- (15) 平成20年度近畿地区小学校生活科教育研究協議会研究会兵庫大会報告書 共著 2009/01 兵庫県生活科教育研究部
- (16) 平成20年度近畿地区小学校生活科教育研究協議会研究紀要 単著 2009/01 神戸市小学校教育研究会生活部・分かる授業推進拠点校としての取り組み・分かる授業を核とした多井畑小学校の研修体制・生活科・総合的な学習「多井畑プラン」、小・高連携いきいき授業の推進、学校評価について
- (17) 震災をふまえた神戸の総合学習のカリキュラム開発（1）「震災体験を生かす防災教育のあり方を求めて」 共著 1996/03 神戸市総合教育センター編研究報告 第300号 藤池安代、村川雅弘、佐古秀一他6名
- (18) 今求められる新しい情報教育～情報化社会にあって主体的に生きる子どもの育成をめざして～ 共著 1995/09 神戸市総合教育センター編 藤池安代編集・執筆、田中克昌、是常哲生他16名
- (19) 授業場面における学級集団形成の研究—一個が生きる学級経営と授業設計のあり方（2）— 共著 1995/03 神戸市総合教育センター編研究報告 第288号 藤池安代、浅田匡、田中博之、佐古秀一他8名
- (20) 授業場面における学級集団形成の研究—一個が生きる学級経営と授業設計のあり方— 共著 1994/03 神戸市総合教育センター編研究報告 第784号 藤池安代、浅田匡、田中博之、佐古秀一他6名
- (21) 21世紀の教育「生活科総合学習から環境総合学習のカリキュラム化」 単著 1993/03 兵庫教育兵庫県教育委員会
- (22) 授業場面における学級集団形成の研究—学級経営と授業設計の力量を高めることをとおして— 共著 1993/03 神戸市総合教育センター編研究報告 第278号 藤池安代、田中博之、他8名
- (23) 神戸市の自然教材作成に関するデータベースの試作 共著 1989/03 神戸市立教育研究所編研究報告 第248号 藤池安代他7名
- (24) 地域教材・ツバメを活用した生活科と総合学習の教材開発に関する研究 共著 1988/03 神戸市教育研究所編研究報告 第241号 前田保夫・藤池安代・竹中幸子
- (25) 小学校3年の理科・社会科を中心とした合科・総合学習の試行的研究 共著 1986/03 神戸市教育研究所編研究報告 第232号 前田保夫、藤池安代
- (26) 神戸市の地域教材（理科）の開発と授業研究（1） 共著 1985/03 神戸市立教育研究所編研究報告 第216号 前田保夫・藤池安代

- (27) 神戸の自然を生かした理科教材研究（5） 共著 1984/03 神戸市立教育研究所編研究報告 第210号 「小学校低学年における地域教材の開発と合科的指導の研究」 藤池安代、前田保夫
- (28) 神戸の自然を生かした理科教材研究 単著 1982/03 神戸市立教育研究所編研究報告 第197号 タンポポを素材にした小学校低学年の合科的指導の試み
- (29) 神戸の野草 共著 1981/07 神戸市立教育研究所編 藤池安代・前田保夫
- (30) 野草教材に関する基礎的研究（2） 単著 1981/03 神戸市教育研究所研究報告 第191号
- (31) 神戸市鈴蘭台地区を中心とした野草教材に関する基礎研究 単著 1980/03 神戸市立教育研究所編